

はこぶ浮世絵－クルマ・船・鉄道

2022 年 10 月 1 日（土）～10 月 26 日（水）

浮世絵で知る・江戸時代の輸送のかたち

人間の日々の生活に欠かせない、「運ぶ」という行為。江戸時代には、人や馬、船などを用いたさまざまな輸送の仕組みがありました。

江戸は水の都であり、江戸湾や隅田川などの水辺に囲まれ、街中には水路が縦横に張り巡らされていました。舟運は江戸の人々の暮らしを支え、樽廻船や菱垣廻船などによる江戸と諸国との海運も盛んでした。陸路では東海道をはじめとした街道が整備され、物流に用いられるのはもちろん、庶民の間で盛んになった遠方への旅のルートともなったのです。歌川広重や葛飾北斎ら浮世絵師たちが描いた作品の中には、こうしたさまざまな物流・交通の様子が、生き生きと写し取られています。

また、今年は鉄道誕生 150 年の記念の年でもあります。明治時代の浮世絵には、当時の日本人にとって未知の乗り物であった鉄道をはじめ、馬車や人力車など文明開化を彩る新しい輸送の様子が盛んに描かれています。

コロナ禍でインターネットを駆使した物流が発展を遂げている昨今ですが、本展では現代のルーツともいえる江戸時代のさまざまな輸送に注目し、約 65 点の浮世絵を通して読み解きます。

〈はこぶ〉という視点でリアルな江戸の暮らしが見えてくる

歌川広重や葛飾北斎など、浮世絵師たちが描いた江戸時代の風景。〈はこぶ〉という視点で眺めてみると、そこには料亭で料理を運ぶ人や街頭で商品売り歩く人、旅の荷物を持ち運ぶ人など、それぞれの目的で物を運ぶ人々の姿が描かれていることに気づきます。

一方で、浮世絵には当時の幅広い輸送手段も描かれています。例えば水辺の多い江戸の地形を活かし、川を渡す渡し船や、遊廓や料亭へ向かう際のタクシー代わりにもなった舟運、旅人の荷物を、宿場間をリレー形式で運んだ人馬継立、文書などを江戸から大坂へ最短数日で届けた飛脚など、車や電車のなかった時代に、想像以上に充実した輸送の仕組みがありました。浮世絵を通して、さまざまな輸送の様子を紹介することで、江戸の人々の暮らしぶりが見えてきます。

鉄道開業 150 年—さまざまな乗り物の浮世絵を一挙公開！

明治 5 年（1872）10 月、新橋と横浜を結ぶ鉄道が正式開業しました。今年 10 月は、それからちょうど 150 年目の記念の年にあたります。浮世絵師たちは実際に鉄道が開通する 2 年ほど前から、時に想像も交えながら、盛んにその姿を描きました。大量に出版された鉄道絵からは、新たな時代のインフラの登場に対する当時の熱気がうかがわれます。本展では鉄道はもちろん、馬車や人力車、船から気球まで、さまざまな乗り物が描かれた浮世絵をたっぷりと展示します。



左 ①歌川国貞／歌川広重「双筆五十三次 府中 あへ川歩行渡し／安倍 茶摘」

中 ②月岡芳年「風俗三十二相 おもたさう 天保年間深川かるこ風ぞく」

右 ③鈴木春信「浮世(美人) 寄花 路考娘」



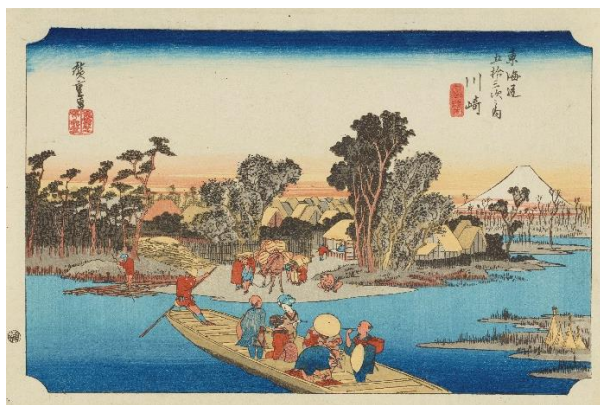
④葛飾北斎「富嶽三十六景 武州千住」



⑤歌川広重「東海道五拾三次之内 日本橋 朝之景」



⑥歌川広重「名所江戸百景 京橋竹がし」



⑦歌川広重「東海道五拾三次之内 川崎 六郷渡船」



⑧葛飾北斎「東海道 五十三次 三島」



⑨歌川広重「大井川歩行渡」



⑩歌川芳虎「亜墨利加國」



⑪昇斎一景「高輪鉄道蒸気車之全図」



⑫小林清親「高輪牛町朧月景」

展覧会情報

タイトル はこぶ浮世絵 ―クルマ・船・鉄道

英タイトル Transportations in Ukiyo-e – Cars, Ships and Railways

会期 2022年10月1日(土)～10月26日(日)

開館時間 午前10時30分～午後5時30分(入館5時まで)

休館日 10/3、11、17、24

入館料 一般 800円 大高生 600円 中学生以下無料

最寄駅 JR山手線 原宿駅(表参道口)より徒歩5分

東京メトロ千代田線・副都心線 明治神宮前駅(5番出口)より徒歩3分

問合せ 050-5541-8600(ハローダイヤル)

公式サイト <http://www.ukiyoe-ota-muse.jp/> 公式Twitter @ukiyoeota

太田記念美術館 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-10-10 TEL 03-3403-0880 FAX 03-3470-5994

E-mail media@ukiyoe-ota-muse.jp 広報担当 金塚さくら 展示担当 渡邊晃